

平成31年3月1日発行

かみすながわ

議会だより

平成30年 第4回定例会

第7号

発 行 上砂川町議会 編 集 議会活性化特別委員会
上砂川町議会事務局 電話 0125-62-2880

今春閉園となる双葉保育園全景



掲 載 内 容

*主な議会政務報告について

2P

*一般質問と答弁内容（要旨）について

3P

*町内事業への参加について

8P

主な議会政務報告について

月 日	会 議 行 事 名	場 所	出席者
12・ 5	議会運営委員会	役場	全委員・議長
7	文化交流の集い 『文化の広がり・浪漫を語ろう!』	町民センター	副議長
12~14	第4回上砂川町議会定例会	役場	全議員
13	総務文教・厚生建設常任委員会	役場	全委員
14	全員協議会	役場	全議員
22	「稻村ひさおと明日の道政を拓く会」 事務所開き	砂川市	議長
22	日本ハムファイターズ上砂川後援会 クリスマスチャリティーパーティー	町内	議長
28	仕事納めの式	役場	副議長
1・ 1	上砂川神社元旦祭	上砂川神社	議長
6	上砂川消防出初式	上砂川支署	議長他5名
7	仕事始めの式	役場	議長・副議長
	新年交礼会	町民センター	議長他4名
11	上砂川商工会議所議員新年会	上砂川岳温泉	副議長
12	上砂川町成人式	町民センター	副議長・吉川議員
18	第1回上砂川町議会臨時会	役場	全議員
31	上砂川消費者協会新年会	町民センター	議長
2・ 7~8	空知町村議會議長会平成31年 第1回定期総会	奈井江町	議長
22	議会運営委員会	役場	全委員・議長
	上砂川建設業協会平成31年度通常総会	上砂川岳温泉	議長
23	ボランティア大空の会 チャリティービールパーティー	町民センター	議長
25	北海道町村議會議長会創立70周年 記念式典並びに祝賀パーティー	札幌市	議長
26	中・北空知廃棄物処理広域連合議会 第1回定例会	滝川市	議長
	第1回砂川地区保健衛生組合議会定例会	砂川市	伊藤議員
	第1回砂川地区広域消防組合議会定例会	砂川市	伊藤議員
27	中空知広域市町村圏組合議会 第1回定例会	滝川市	議長・副議長
	石狩川流域下水道組合議会 第1回定例会	滝川市	議長
	空知中部広域連合議会第1回定例会	奈井江町	議長・吉川議員

一般質問

(質問者順)



議席番号 8 番
高橋 成和議員

質問要旨

一般廃棄物最終処分場の今 後の受け入れ容量について

赤平市茂尻地区の一般廃棄物と産業廃棄物を処分する塵芥処理場が満杯となり歌志内市の最終処分場に受け入れ要請しているとの報道がありましたが、町内の最終処分場は平成15年に受け入れを開始し、平成21年に5市9町により「ゴミ処理広域化基本計画」が策定され現在広域の自治体でゴミを処理することにより減量化が図られている状況です。

答弁要旨

現在の一般廃棄物最終処分場は、平成14年に埋立容量28,500m³、埋立期間を平成28年度までの15年間として本町地区に建設し供用開始しており、この施設においては産業廃棄物の受け入れはしておりません。供用開始当初は可燃ごみ等の埋立も行っておりましたが、平成15年度から2市3町で構成する砂川地区保健衛生組合でごみ処理広域化施設としてクリーンプラザくるくるの供用を開始したことから、本町の最終処分場への埋立量は建設当時の計画より減少いたしました。平成23年度末

の動向と町内処分場の受け入れ残容量と今後の見通しについて伺います。

2点目、処理施設の機械設備については建設してから15年が経過していますが、処理フローの工程で必要な機械、機材の耐用年数というのは何年ぐらいなのか、また将来を見据えたうえで大規模な修繕や機器更新の見通しをされているのか伺います。

答弁要旨

2点目の処分場の機械、機材の耐用年数につきましては、5～6年ものから長いものでと3年以上使用可能なものまで幅がありますが、建設後10年以上経過していることから、保守点検業者の助言等を基に平成28年度から年次計画により修繕及び更新を行うことで維持管理に努めております。一例を申し上げますと費用が高額となるシーケンサの取替は、平成28年度から平成30年度までの3か年で実施いたしました。また、計画以外の故障等が発生した場合は、補正予算を計上し業務に支障のないよう維持管理を図っております。これら機械の更新につきましては一

は、平成24年度以降も埋立量は減少し、同年度以降の年間埋立量の平均は300m³以下で、平成29年度末の残余容量は約21,300m³となっております。今後大幅に埋立量が増加する要因が見込まれませんので、埋立可能期間は平成25年当時よりさらに延長され本年度以降71年間埋立可能と推計されます。

最終処分場の埋立量につきましては、平成43年度までとしたところです。最終処分場の埋立量につきましては、平成24年度以降も埋立量は減少し、同年度以降の年間埋立量の平均は300m³以下で、平成29年度末の残余容量は約21,300m³となっております。今後大幅に埋立量が増加する要因が見込まれませんので、埋立可能期間は平成25年当時よりさらに延長され本年度以降71年間埋立可能と推計されます。

での残余容量は約22,700m³となり、上砂川町一般廃棄物処理基本計画では、埋立期間を15年間延長しました平成43年度までとしたところです。

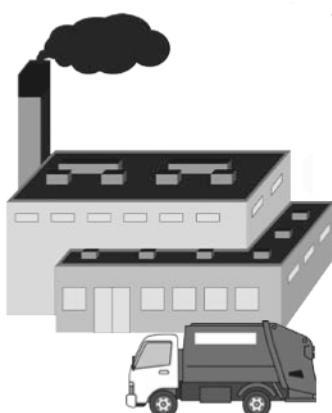
すことから、今後も状況を確認し町の財政状況も勘案しながら適切な維持管理が図られるよう努めてまいります。

再質問要旨

一般廃棄物処理基本計画は平成25年の4月に策定されていますが、広域に加盟している関係もあるかと思いますが、今後、同様に計画について策定して冊子を作成されるのかお伺いします。

答弁要旨

一般廃棄物の処理基本計画につきましては、39年度までということです。今議員の方でご指摘のありました通り広域で行っているということがございませんので、形は変わるかもしれませんけれども同じようにまた計画の方は必要になると考えてございます。



質問要旨

答弁要旨

体育センターの運動器具の更新について

体育センターの運動器具については現在老朽化と安全性の観点から16台の器具のうち使用不能の器具が半数あります。使用禁止の札を貼つて対応しておりますが、安全対策で移設撤去が必要かと思いますが今後の対応についてお伺いします。

二点目、近隣のスポーツ施設にある業務用と呼ばれる大型のトレーニング用マシンは多額の費用がかかるところです。若年層から高齢者まで体力の向上や生活習慣病予防、認知症予防、成人病予防に繋がると思いますし、町内にも地域おこし協力隊の隊員が現在健康運動指導士の資格を有しておりますので様々なところで体育センターの利用率向上にも繋がるのではないかと思います。

近隣にあるスポーツジムに高い費用をかけて通わなくても町内で基礎体力作りができる環境整備が整えられれば若者の定住促進にも繋がると思いますが、更新の見通しについてお伺いします。

体育センターの運動器具につきましては、昭和54年の勤労者体育センターオープン時に住民の健康増進・体力向上のため持久力を高めるウォーキランや筋力を高めるプレスマシーンなど14種類の器具を設置し長年町民の方に利用されてきたところであります。現時点において、恒常的に運動器具を利用されていると思われる利用者の方は、受付名簿上では7名となっており、運動器具の台数は数年前に町民から寄贈があったエアロバイクなどを含め、現在全部で16台ありますが、9台の器具にて、故障した際の修繕用部品が業者になく、修理できずにそのまま使用禁止にしている状態であります。器具を管理する教育委員会としては、当面の処置として使用禁止の旨の貼り紙をして利用者に周知しておりますが、誤使用や倒壊などの発生が想定されることから、利用者への安全確保のため、使用できない器具を順次撤去し、併せて現在使用できるエアロバイクやツイストマシーンなど、7台の器具を利用者が効率的に利用できるよう配置したいと考えております。

再質問要旨

2点目、住民の方がよく活用されると思われるランニングマシーンやマルチジムなどの運動器具を導入できないかとのご質問ですが、現在ある使用可能な器具につきましては、年式は古いもののある程度のものは揃っていると考えており、購入には多額の経費を要する中、利用者が非常に少ない現状や議員がおっしゃる体力向上や生活習慣病、成人病の予防につながる「基礎体力作りができる環境」には最低限どのような器具を整備すればいいのか、また現状ある器具での対応が出来ないのかなど、健康運動指導士の資格を持つ地域おこし協力隊員や町のスポーツ推進委員などの、意見を聞いた上で教育委員会として町民にとって体力向上や健康増進に資する運動器具のあり方や更新等の必要性について検討してまいります。

質問要旨

て

小中学校「置き勉」等について

文部科学省は、児童生徒が登下校時に持ち運ぶ教科書、教材、学用品の重さや量に配慮するよう促す事務連絡を出しました。
「ゆとり教育」見直し後、教科書の大型化が進み、ページ数は小学校で



議席番号1番
小澤 一文議員

教育委員会として専門の方に助言をいただきましたが、簡単に運び出せない器具のようですので改めて搬出方法を検討し業者から見積依頼をして対処してまいりたいと考えております。

答弁要旨

34%、中学校で31%増加し、登下校時の荷物は重量化の傾向にあります。ランドセルメーカーが小学生らを対象に行つた調査では、1週間のうち最も重い日のランドセルの重さは平均約6Kgになり、小学生の約3割が感じているという結果も出ています。事務連絡では、家庭学習で使わない教材を学校において帰る「置き勉」や、学期末における学習用具の計画的な持ち帰りなど、各学校に対しても対策を検討するよう求めています。保護者には不安を感じておられる方も多いものと思いますが、適切な判断と対策の上、早く子供たちの負担を軽減すべきであると考えます。本件について、教育委員会は、どのような対策をとられるのかお尋ねします。

答弁要旨

「脱ゆとり教育」による教科書のページ数増加などで、小中学生のカバンが重くなっている状況について保護者から心配する声を受け、議員がおっしゃるとおり、文部科学省では宿題で使わない教科書などを学校に置いて帰ることが出来るようになるなどの通学時の持ち物負担軽

減に努めるよう全国の教育委員会に通知を出したところです。本町においては、この通知を受け「校長・教頭合同会議」において各学校の対応状況を調査したところ、小学校においては、すでに鍵盤ハーモニカや書道セットやドリルなどの教材道具を置かせており、国語辞典は学校に備え付けのものを使用するため、持たせて通学させておらず、中学校においても、本年4月より基本的には学習に使う教科書やノートは持ち帰ることとはしているものの、リコーグー、スケッチブックなどの教材道具をはじめ、保健体育や音楽など一部の教科書やノートについても教室内の棚に置いていくことが可能としているなど、児童生徒の通学時の負担軽減に取り組んでいる状況であります。教育委員会といたしましては、特に小学校児童においては大部分が保護者等の自家用車にて登下校している現状はあるものの、子どもたちの体やその成長に影響が出ないよう家庭での予習・復習学習の必要性も考慮しながら、いわゆる置き勉について今後も各学校とともに近隣市町の取り組みを参考しながら検討していくことを考えておりますことを申し上げ、答弁といたします。

「置き勉等」についての再質問をさせていただきますが、実際に既に取り組んでおられるとのことでありますけれども、今後、保護者や児童生徒に対してアンケートなどで状況の確認をする調査などを考えておられるのかどうか、お聞きしたいと思います。

質問要旨

ふるさと納税について

アンケートの実施につきましては、学校側とも相談の上、検討して参りたいと考えております。



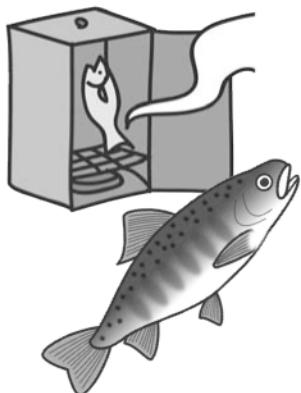
全国には、多くの工夫を凝らした返礼品があるようです。そこで、本町が物だけの返礼品の他に、本町の実情に合った、また地域の問題の解決に繋がるようなサービスを提供することができます。できれば、特色のある、他にはない「ふるさと納税」としての価値を創り出せることになります。このように、新たな納税者を開拓し、本町との繋がりを広げる観点から、「ふるさと納税返礼品」を積極的に模索し、展開すべき時なのではないでしょうか。今後の「ふるさと納税」に対する、本町の取り組みについてお伺いします。

ふるさと納税制度が創設されて以来、本町においても真心の応援を全国各地から賜り、寄せられた資金は、「上砂川町がんばる基金」として、子育てや教育、町づくりなどに有効に活用させていただいています。総務省は、「返礼割合が3割を超えないこと、地方団体の区域内で生産されたものを提供することが適切である」と、責任と良識のある対応を求めて参りました。

答弁要旨

ふるさと上砂川町を応援いただけた個人や団体から広く寄付金を募り、寄付者の意向に沿つて各種事業に充當することを目的に、ふるさとづくり寄付条例を制定し、また、「ふるさとづくり基金」を設置して積み立て、制度開始から本年11月末時点まで、延べ265件の個人・団体から、総額5,657万9,085円の寄付をお寄せいただいており、これまでの間、有効な活用に努めてまいりました。

この貴重な寄付金を活用し、平成26年6月には小・中学校の机・椅子の更新へ400万円、平成28年7月には少年野球チームのユニフォーム等の用具一式に60万円を補助、また平成29年6月にはスフェラードの防災テント購入に900万円を充当し、本年度においては、認定こども園等の図書購入に100万円を充当する予定で、現在の基金残高は3,900万円程となっております。地場産品の乏しい本町におきましては、どうしても農産物や海産物が豊富な自治体と比べ納税額が少ない状況にあり、なかなか難しい実情にござります。このように、スフェラースティックが資産性の高い返礼品との指



の案として検討してまいりたいと考えております。引き続きふるさと上砂川町を応援くださる多くの志を大切に、新たなふるさと納税者を開拓するため、鋭意努力いたす所存でありますので、ご理解をお願い申し上げ答弁いたします。

摘を受け、返礼品から除外したところであり、現在の返礼品につきましては、工夫を凝らしながらニジマスの燻製を始めとします8品目を納税額に応じ返礼しておりますが、いろいろな観点から新たな返礼品を模索してまいりたいと考えております。

貴重な財源でありますことから、納税額向上のためのソフト面を充実させる方策として、今後、インターネット等の媒体を使用したPRやクレジットカードによる納付決済、さらには具体的な寄付金の使い道を定め、魅力ある事業に対する寄付を募るクラウドファンディングも、一つの案として検討してまいりたいと考えております。



議席番号3番
伊藤 充章議員

質問要旨

今後の水道事業の展望について

先日、水道事業の経営の安定化に向け改正水道法が成立しました。

この改正水道法は、水道施設を統合するなど事業の効率化を進めるために「広域連携」を推進することや、民間のノウハウを生かして経営を改善するため、水道施設を自治体が所有したまま民間事業者に運営権を売却できる「コンセッション方式」を導入する、等としています。

道使用量が減少するなど、経営状況が悪化しているという事情があります。これは当町においても例外ではなく、今後必要になつていく老朽化した水管の敷設換え等の施設・設備の更新や、給水戸数の減少に伴う水道使用量の減により益々経営状況は厳しいものになつていくと思われますが、今後見込まれるであろう水道料金の改定や、広域水道への加入・コンセッション方式の検討が必要となついくのか、又は今後も町独自の水道事業を維持していくのか、展望をお伺い致します。

答弁要旨

はじめに、本町における水道事業の状況は、人口減少と水需要の減少は深刻な問題であり、平成29年度決算値と、10年前の平成19年度決算値を比較しますと、給水人口は3084人、給水量は194,000トン減の288,255トン、料金調定額は4,773万3千円減の8,631万3千円まで減少しております。繰入金の状況に付きましては、平成29年度は1億947万6千円を一般会計から繰り出し収支の均衡を図つており、その内交付税に算入

改正水道法の背景には水道施設の老朽化が進む一方で、自治体の厳しい財政事情により施設・設備の更新が進まない事や人口減少に伴つて水

される繰出基準を超える赤字補填額は1,522万8千円となつておなり、これを料金に換算した場合、平成29年度単年度で約17.6%の料金改定が必要となると試算しており、原則水道料金で運営する独立採算制とされている経営状況は、非常に厳しい状況にあります。

水道料金を近隣市町と比較いたしますと、家用一般料金で、1立方メートルを使用した場合の料金は、最高が夕張市の3,041円、最低が岩見沢市の1,490円で、平均は2,544円となつており、上砂川町の水道料金は2,808円で平均的な金額に設定されているものと考えますが、これは一般会計からの繰入金に大きく依存していることによるものであります。

次に水道施設の老朽化についてであります。昭和62年7月の炭鉱閉山後、移管を受けた三井専用水道施設は、昭和63年度から平成6年度まで閉山炭坑水道補助により、専用水道全区域の導水管、送水管、配水管を、総延長21,535メートルに渡り更新を行いました。

また、旧上水道区域におきましては、簡易水道事業として平成18年度から浄水施設の電気計装設備の

更新と、40年の耐用年数を経過した13.9%にあたる8,263メートルの配水管布設替えを計画的に進めて来ており、本年度で3,028メートルの更新を完了し、残る5,235メートルにつきましても、今後年次計画で更新を進めてまいります。今後の展望についてであります。今後も給水収益の減収により町単独での水道経営が難しくなることも懸念され、水道料金の改定も今後避けてとおれない課題であり、また、広域連携についても検討せざるを得ない時期が来るものと考えますが、水道は住民の生命を支える大切なライフルラインであり、直接住民に影響を与える非常に難しい問題であることから、今後議会や町民の皆様からご意見等をいただきながら検討し、法施行後の国や道の動向を注視し、対応して参ります。

いく方には現在使われている浄水場が必須と考えます。もし広域連携となる場合、現在の浄水場は維持する事が出来るのか、その可能性をお伺いします。

答弁要旨

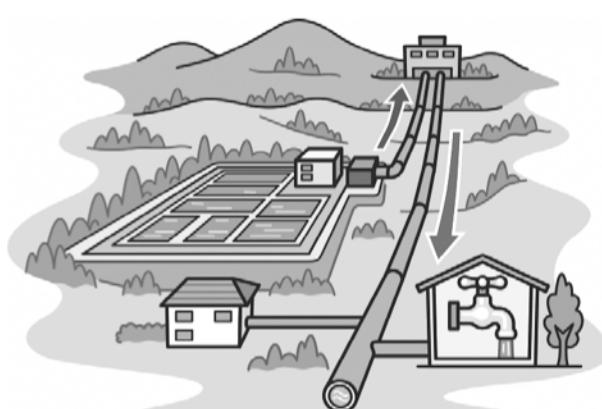
この統合の方法につきましてはいろいろな方法があり、施設を統合する方法、または会計上のみだけの統合という方式もありますので、上砂川町のおいしい水を残すためには、やはり上砂川町の施設を残す形で検討してまいりたいと考えております。

質問要旨

除雪対策について

昨年は記録的な大雪となり、私の家の真下にある公営住宅では屋根の雪が2m近くも堆積し、雪庇の落下により居室の窓や廊下の窓ガラスが割れる被害も発生いたしました。そして住宅の出入り口も雪庇が異常な厚さで垂れ下がり、その下を高齢の方が出入りするたびに、はらはらしながら見ておりました。そこで町としても昨年の状況を踏まえ、いろいろと除雪対策を講じておられると思いますがお尋ねいたします。

1点目、降雪状況にもよりますが、公営住宅の出入り口については雪庇による人身事故が起きないように早



議席番号5番
数馬 尚議員

めの対応をお願いします。

2点目、道路の除雪については、町広報12月号でいろいろと協力要請があり、道路に雪を出さないようにとあります。が、近くに空き地がない場合やむなく道路の路肩に雪を押し付ける訳ですが、その固い雪が排雪後出入り口に取り残されて雪の壁になってしまいます。小さいものは碎いて処理いたしますが、大きなものは、とても歯が立ちませんので、高齢者が処理出来ないような大きいサイズのものは、取り除くか、碎いて小さくするなどしていただきたいと思います。

本町の昨年の降雪量につきましては、消防上砂川支署の記録で8メートル30センチ、積雪は、1メートル55センチであり、近隣の砂川市で9メートル5センチ、歌志内市で12メートル9センチの降雪量を記録していることから、記録的な大雪の年でありました。

1点目のご質問、公営住宅の出入り口の雪庇による人身事故が起きない早めの対応についてありますが、雪庇落としの対象となる公営住宅は、63棟436戸あり、この住宅は2階

建て以上の住宅のため高所作業車を使用して作業を行っております。昨年は記録的な大雪のため高所作業車が計画どおり確保できず作業が遅れてしまいましたが、幸いにして事故がなかったものの、ご指摘のとおり早めの対応が必要であると考えております。本年度につきましては、在宅高齢者等除雪サービスにおいて、一般の2階建住宅の屋根除雪が拡充され対象となり、高所作業車を用いての実施が予定されておりますことから、このサービスと連携することにより高所作業車の確保が可能となると考えておりますので、町営住宅入居者の安全・安心を確保するため、早めの対応に努めてまいります。

平成31年第1回上砂川町議会定例会を傍聴しませんか？

本会議は、簡単な手続きで自由に傍聴することができます。町議会の活動などを知るよい機会ですので、ぜひ傍聴にお越しください。

○議会日程：3月8日（金）～20日（水）
○傍聴可能日：3月8日（金）・11日（月）
14日（木）・20日（水）

取り除き作業を実施しておりますが、実態として残ってしまう個所もあり全てを取り除くことができていない状況にあります。町といったしましては、今まで同様、出入り口を含め冬期間の雪道の安全・安心を確保するために万全を期し、冬期間の暮らしをより住みやすくするため努めてまいりたいと考えております。

町内事業への参加報告

エルムの里支援事業
「クリスマスチャリティー」
パーティ



12月22日「日本ハムファイターズ上砂川後援会」主催のエルムの里支援、チャリティーパーティーが180名以上参加の中、町民センターで開催されました。

当日は、沢山の賞品の抽選会、ダンス演奏等があり、参加者はダンスを楽しむなど、冬の一夜を楽しく過ごしていました。

上砂川消防出初式



は「消防組織」の一員として消防職員と一緒にその職務を遂行します。その為に団員の皆さんは日々厳しい訓練を積んで必要な技量と規律を保ち、「自分達の町は自分たちで守る」という郷土愛を胸に、この上砂川町を守つて下さっております。

出初式は今年一年の無火災・無災害を祈念し行われ、伝統ある木遣り行進、見事な登梯、勇壮で一糸乱れぬ分行進、寒さ厳しい雪の降る中でも全員身じろぎもせず規律を保つその姿に、練度の高さを思う素晴らしい式典でした。

何も起こらないのが一番ではありますが、何か事が起こうた時にはとても頼りになる存在であると改めて思うと同時に、その為に日々備えておられる消防職員、消防団員の皆様の日頃の見えないご苦労と、支えておられるご家族の皆様に深く感謝する次第です。

本年も消防団新春出初式に出席させて頂きました。

「消防」という組織は二種類あります。一つは常設消防と言われる組織で、消防職員で構成されており、いわゆる消防士さんがその職務を遂行しております。

そしてもう一つが非常設消防といわれる組織の消防団です。消防団は消防団員で構成されており、団員の皆さんには普段はそれぞれ別々の職業に就いておりますが、有事の際に

は「消防組織」の一員として消防職員と一緒にその職務を遂行します。

全町新年交礼会

去る1月7日(月曜日)に、新年交礼会が町民センターで開催されました。新年の幕開けと共にお祝いをし、自身の更なる成長の一年であるようないとお誓いさせていただきました。

会場は、各界でご活躍されている大勢の方々で熱気に溢れ、各所は意見交換の場として大変に盛り上がっていました。「平成最後の年に何を願い、どんな思い出を作るのか?」そんな会話が聞こえてくるようでした。また、奥山町長、大内議長のご挨拶の中にも触れられておりましたが、昨年は胆振東部地震等、災害の多い年でもありました。被災された皆様が、一日でも早く復興ができるようお祈り申し上げるとともに、本年が災害のない穏やかな一年であつてほしいと願うばかりであります。

新年交礼会に参加させていただき決意したことは、これからも上砂川町がもっと元気になるよう微力ながら、しっかりと応援して参りたいということです。町民の皆さんと一緒に!

出席者(6名)

大内兆春・高橋成和・数馬 尚・
吉川 洋・伊藤充章・小澤 一文

出席者(5名)

大内兆春・高橋成和・数馬 尚・
吉川 洋・小澤 一文

出席者(2名)

高橋成和・吉川 洋

上砂川町成人式



1月12日(土曜日)上砂川町の成人式が開催され、今年は16名の新成人が参加し、懐かしい友人たちやお世話になつた担任の先生との再会を喜んでいました。今年は上砂川町応援大使の日本ハムファイターズ中田翔選手と石川亮選手のビデオメッセージも流れ、和やかな雰囲気のなか式がおこなわれました。

第9回雪ん子祭り in 上砂川

ボランティア大空の会 チャリティーパーティー



2月16日(土曜日)雪ん子まつりが旧上砂川駅舎と駅前広場で開催されました。屋外ではスノーモービルの試乗体験や宝探し、活性化センターや内ではもちつきやビンゴ大会などがおこなわれ、滑り台につきましては今年度より陸上自衛隊滝川駐屯地の隊員さんに制作協力をいただき巨大な滑り台が完成し子どもたちも楽しんでおりました。



2月23日(土曜日)ボランティア大空の会主催のエルムの里支援を目的としたビールパーティーが開催されました。今年もバンド演奏、抽選会、手打ちそばもあるまわれ、たいへん賑わっておりました。

今年の冬は昨シーズンの記録的大雪と比べ降雪も少なく穏やかな天候が多く、気づけば春が間近となるまいりました。気候は穏やかですが年当初から今年は荒れる年と言われており、道内情勢につきましては、来月4年に一度の統一地方選挙がおこなわれ、16年ぶりに北海道は新しい知事が誕生し、5月には平成が終わり新元号になります。10月にはいよいよ消費税増税も予定されおり道内全体において激動の一年になることが予想されており、が終わることで予想されており、私たちの生活においても大きな影響があり混乱がないか不安を抱いているところです。

今年の町内の明るい話題といてしましては、来月から「認定こども園ふたば」がスタートし、4月17日には上砂川町に開拓の歴史がおろされから120周年を迎えることになります。昨年11月に本町は人口3,000人を割り込むこととなりましたが、決して臆することなく今後もまちづくり総合計画や総戦略に基づき、我々議会も二元代表合議制の責任がある立場ですので町の高橋成和議員さんと一緒に政策がしつかりと将来に引き継げるよう審議し、議会活動に励んでいきたいと思います。

私達議員も3月定期議会においてちょうど4年間の任期の半分がい

今年の冬は昨シーズンの記録的大雪と比べ降雪も少なく穏やかな天候が多く、気づけば春が間近となるまいりました。気候は穏やかですが年当初から今年は荒れる年と言われており、道内情勢につきましては、来月4年に一度の統一地方選挙がおこなわれ、16年ぶりに北海道は新しい知事が誕生し、5月には平成が終わり新元号になります。10月にはいよいよ消費税増税も予定されおり道内全体において激動の一年になることが予想されており、私たちの生活においても大きな影響があり混乱がないか不安を抱いているところです。

今年の町内の明るい話題といてしましては、来月から「認定こども園ふたば」がスタートし、4月17日には上砂川町に開拓の歴史がおろされから120周年を迎えることになります。昨年11月に本町は人口3,000人を割り込むこととなりましたが、決して臆することなく今後もまちづくり総合計画や総戦略に基づき、我々議会も二元代表合議制の責任がある立場ですので町の高橋成和議員さんと一緒に政策がしつかりと将来に引き継げるよう審議し、議会活動に励んでいきたいと思います。



(記 高橋 成和)